

人生第2幕 趣味に思索に

「老いてこそマイライフ」乙訓の55人エッセー集

乙訓地域に住む退職者の男性でつくる『『男の居場所』の会』が、エッセー集「老いてこそマイライフ」をこのほどまとめた。2年前の第1集に続く発行で、趣味や老後の暮らしぶりなど、それぞれに自由なテーマをつづりつつ、人生の第二幕を生きる男性たちの心情を伝えている。

男の生きがい語る

60〜80代のメンバー55人全員が寄稿した。多く取り上げられた題材は、退職後に始めた趣味。サイクリングの醍醐味や70歳前に習い始めた英会話で外国人観光客を道案内したエピソード、野菜作りの楽しさなど、生きがいを持つ喜びが率直な言葉で語られている。

老いに向ける視線は

執筆者によってさまざままで、死の迎え方を考察する会員がいる一方、101歳まで長生きすべく実践中の健康法を紹介する人もいる。75歳を迎えて行政から後期高齢者に分類され、「無心に遊ぶ『光輝幸齢者』でいたい」とユーモアたっぷりな切り返した文章もある。

編集委員の鎌田昭洋

さん(68) 長岡京市

開田は「老年期に入った男性の思いを吐露したエッセー集はそうないはず。同年配の女性にこそ読んでほしい」と話している。

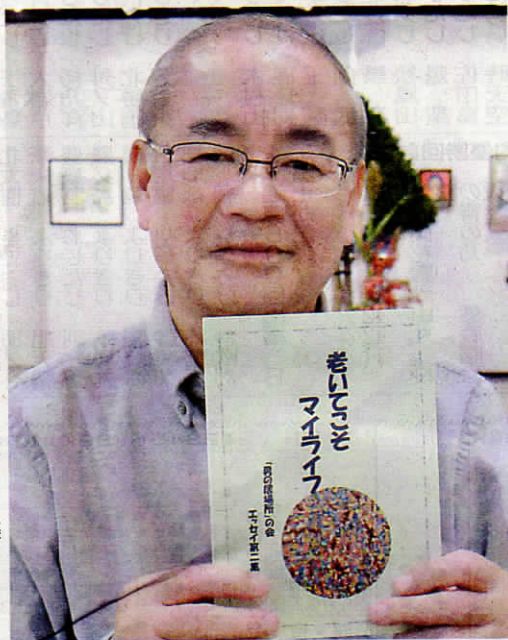
A5版197ページ。1

冊500円。問い合わせは

同会の岸本裕次会長、携帯電話090(4

640)9187へ。

(高野英明)



退職者の男性たちが心情をつづったエッセー集